

岩原横穴墓群(山鹿市)

いわばる

ここが岩原横穴墓群入口/岩原古墳群の北側に所在する

[video](#)



少し進むと、説明板があった



岩原横穴群分布図

●印 横穴墓
 (ただし●印は実数を表してはいない。)

岩原古墳群

岩原台地

下原古墳

狐塚古墳

双子塚古墳

地隙

第VI群

第V群

地隙(自然景観)

第IV群

第III群

第II群

第I群

駐車場

現在地

岩原横穴群

山鹿市

名護市

0 200m

岩原横穴群は、米野山の北麓に広がる岩原台地（標高約75m）の北側から南西側にかけて、6群181基の横穴からなる。このうち8基に装飾が認められる。

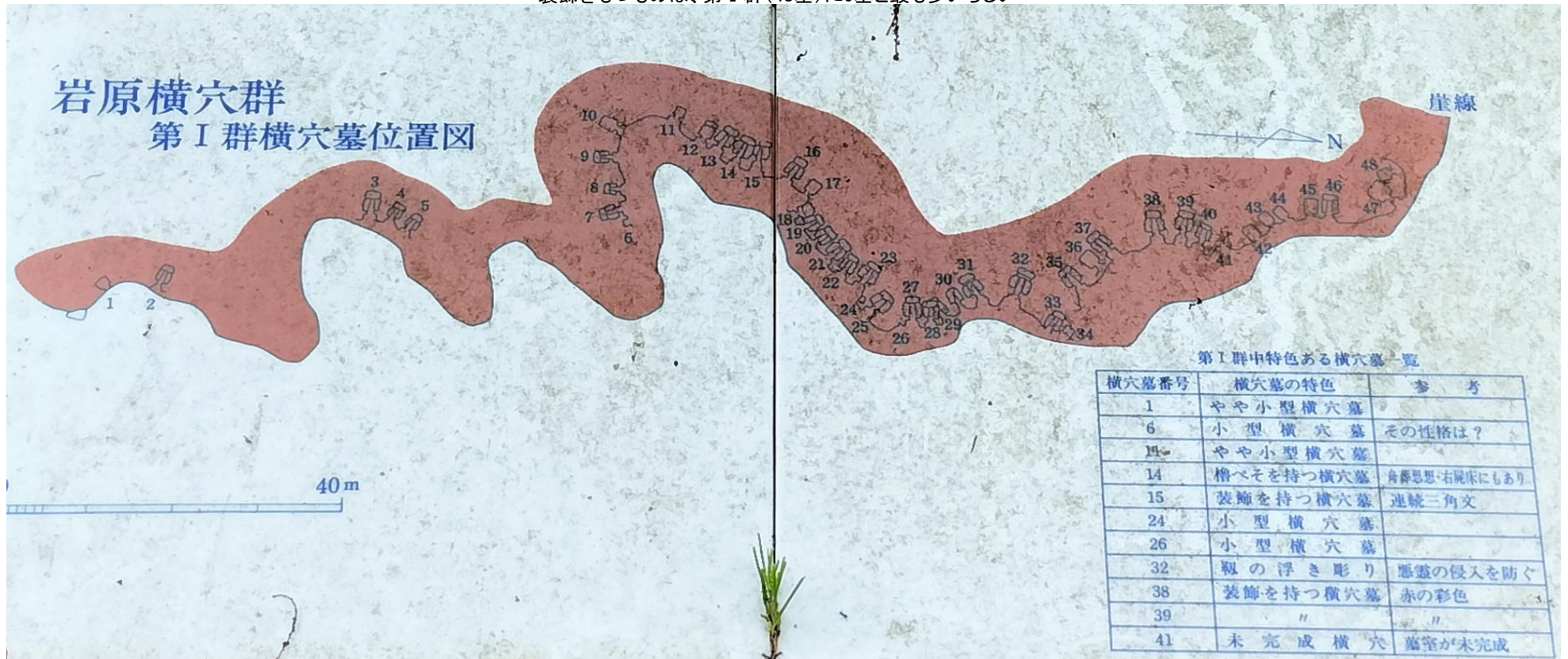
特殊な例として、I群の14号横穴の正面屍床の障壁をゴンドラの舟縁の形にし、櫓べそを設けるなど舟葬思想との関連を思わせるものがある。

この一帯には、長岩横穴群・桜の上横穴群（いずれも県指定）・小原大塚横穴群・小原浦田横穴群など数百基の横穴があり、岩原横穴群も同一の横穴文化圏にふくまれるものである。いずれも6世紀から7世紀にかけての熊本県の歴史を理解するうえで、学術上価値のある文化財である。

現在地に近い第I群の横穴墓を見てみよう



装飾をもつものは、第Ⅰ群(48基)に6基と最も多いらしい



駐車場の辺りに別の説明板があり、そこから31号墓や32号墓が見える



正面中央が31号墓、その右手が32号墓のようだ

 [video](#)



アップで見たところ/31号墓と32号墓の間の外壁面には、浮き彫りの奴隸形の鞍と、その上方に11本の鏃が刻まれているというが...



岩原横穴墓（第Ⅰ群）

岩原台地の北側と西側の侵食谷の崖面には、約分布状況から、6群に分けられる。

現在地の横穴群は、その第Ⅰ群に当たり、165mも保存状態が良く、見学にも適している。第Ⅰ群三体の遺体を納める「コ」の字型の屍床を造り出

6号と24号・26号は小型横穴墓で、1号・11号たまま放置した未完成横穴墓である。

装飾は14号・15号・23号・32号・38号・39号の14号墓には、正面に舳先の上がったゴンドラ形つの円筒状の造り出しがあるが、舟の櫓べそを表を積んだゴンドラ形の舟の装飾壁画や、菊池川流古代南方の習俗「舟葬」の影響を裏付ける遺構と手前の屍床壁には連続三角文が描かれ、32号、38かがわせる。そのほか、31号と32号の間の外壁面いるが、墓室内に悪霊が侵入するのを防ぐため、

131基の岩原横穴群が存在する。同横穴墓は、その

の範囲内に48基が造られている。6群の中では最の横穴墓の床面の構造は、平坦な平床のものと、したものがある。

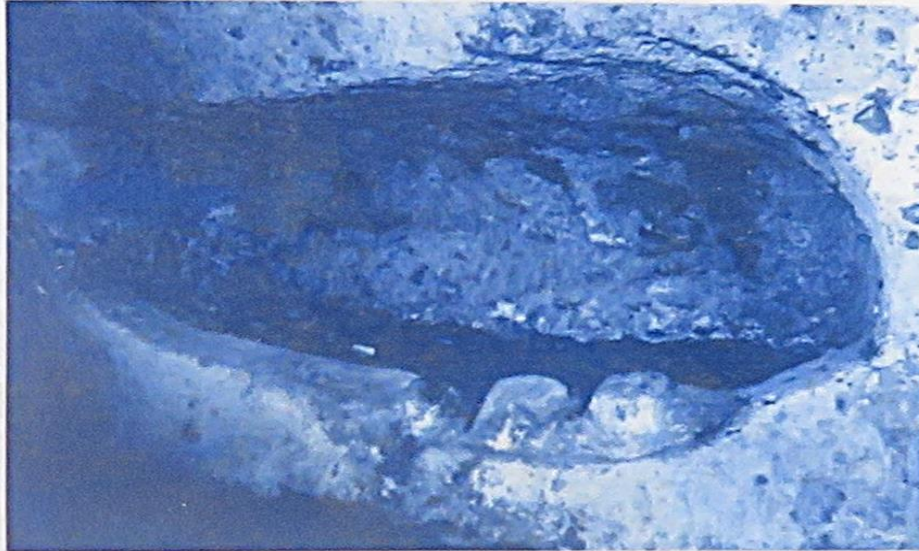
もやや小型である。また41号は、内部を掘りかけ

6基に見られる。

の屍床が設けられる。その屍床の右手縁には、二した可能性が強い。弁慶が穴古墳（山鹿市）の柩域に残された30数基の舟形石棺の分布を考える時、して、大変興味深い。15号墓の奥屍床壁、および号、39号にも赤い彩色が残り、装飾の可能性をうには、靱が浮き彫りにされている。風化が進んで32号墓用として入口外壁に彫られたものである。

特殊な例として、第Ⅰ群の14号横穴墓の正面屍床の障壁をゴンドラの舟縁の形にし、櫓(ろ)べそを設けるなど舟葬思想との関連を思わせるものがあるという

ゴンドラ形をした奥屍床の仕切り



(岩原Ⅰ群—14号横穴墓)

舟の櫓べそと考えられる円錐台形の突起



(岩原Ⅰ群—14号横穴墓)

こちらはその14号墓の辺りを見たところ

 video



アップで見たところ



更にアップで見たところ



そこで、右手を見たところ/31号墓・32号墓の辺りが見える

[video](#)



アップで見たところ



